

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和5年度分)

<県の評価等>

施設所管部名 教育委員会

1 指定管理者の概要等

Table with 2 columns: Item (施設名称、指定管理者名称等、指定期間、業務内容) and Value (三重県立熊野少年自然の家、有限会社熊野市観光公社、令和5年4月1日～令和10年3月31日、5業務内容).

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

Table with 4 columns: Evaluation Item, Self-Evaluation (R4, R5), County Evaluation (R4, R5), and Comment. Rows include: 1. Management business implementation status (B, B), 2. Facility utilization status (B, B), 3. Achievement of results and performance (C, C, +, +).

※「評価の項目」の県の評価: 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

Table with 2 columns: Summary Evaluation (総括的な評価) and Content (Overall summary of facility management, safety, and community engagement).

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

①熊野少年自然の家条例第2条に基づく事業の実施に関する業務

- ・青少年及び社会教育関係団体の施設の利用、指導業務、利用許可、料金收受及び関係者への研修業務等に関する業務を実施した。
- ・利用団体にはオリエンテーションを行い、生活面の助言、創作活動及び野外活動等での講習を行い研修活動を支援した。
- ・主催事業では、新型コロナウイルスが、令和5年5月に2類から5類感染症に移行されたこともあり、コロナ以前に近い事業展開をすることが出来たが、天候不良や講師の日程等で、止む無く中止にした事業もあった。紀南レクリエーション協会等と共催でニュースポーツ大会を開催、また地域自治会とポッチャを通じて体験会を重ねニュースポーツの普及も行った。また熊野市教育委員会等の各種団体と連携する等開催及び共催し、小学生から一般まで幅広く青少年の健全育成と生涯学習事業を推進実施した。
- ・利用申請、利用許可及び利用料金收受等に関する業務については、取扱い基準、利用料金の納入方法等を定め適正に運用した。
- ・「イベントのご案内」を作成し、東紀州地域を中心に小学校へ配布し、施設PRに努めるとともに、ホームページを通じた情報発信(動画配信含む)を行った。また、地元CATV等を活用して主催事業のPRを積極的に実施した他、スタッフブログにより、テレビや新聞では伝わらない<熊野少年自然の家のイマ>を伝えるなど情報発信の充実に努めた。
- ・四日市で開催された「東海北陸地域青少年施設協議会運営大会」に出席し、当施設が実施した「サマーキャンプ」を題材に意見交換のテーマとして発表した。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・感染防止対策として、前年度に引き続き利用者退所時の布団天日干しを実施した。今後も行っていく予定である。
- ・令和5年度は、老朽化に伴う施設設備の整備を積極的に実施し、修繕費の支出額は4,404,527円を要した。漏水や施設の塗装等を中心に実施した。また、緊急性を要する小規模修繕については職員自らが速やかに対応した。
- ・県教委と協議し、短期(1年)及び中長期(3年以上)等の修繕計画を立て、計画的に修繕を実施した。
- ・令和6年度においては、フィールドサーキット撤去、及びLED化に向けて、県、見積り業者と検討していく予定である。

③県施策への配慮に関する業務

- ・紀宝町内で開催された「三重県内男女共同参画連携映画会」に2名出席し、男女共同参画について研修した。
- ・「令和5年度ジュニアフォレスタ育成講座」を当施設を中心に行った。
- ・五條市立西吉野農業高校が当施設に宿泊し、梅収穫等の農業体験を実施し、令和6年度においても行う予定。
- ・四日市市で開催された令和4年度東海北陸地区青少年教育施設協議会 運営研究大会に職員3名出席し、主催事業についての発表を行った。
- ・三重大学からの依頼で、大学院教育実習生の教育実習期間の宿舎として利用を斡旋した。
- ・三重県総合文化センターで開催された「地域『学』フェスティバル2023」に参加し、ウッドクラフトで対応した。
- ・県内全ての市町教育委員会を訪問し「利用案内」を配布するとともに、利用促進に努めた。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・平成22年4月1日から施行している「三重県立熊野少年自然の家の管理に関する情報公開実施要領」に基づき実施している。
- ・令和5年度においては、開示請求はなかった。
- ・三重県が開催する情報公開・個人情報保護制度初任者研修会に職員を派遣し、制度の正しい理解と運用に努めた。

⑤その他の業務

- ・特になし

(2) 施設の利用状況

<設定目標> 延施設利用者数 27,500名 定員稼働率 17.0%		実績 延施設利用者数 20,753人 定員稼働率 13.0%
--	--	--------------------------------------

- ・施設利用者の受入れについては、基本協定書第9条に基づき利用許可基準を定め、三重県行政手続条例及び三重県立熊野少年自然の家条例に基づき適正に処理した。

2 利用料金の収入の実績

- ・利用料金収入目標額 5,786千円に対し、令和5年度実績 4,728千円であった。
- ・学校クラブ、学校研修等で利用する場合、引率者に対し利用料金の減額を適用した。(利用料金の減免額228,000円)

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R4	R5		R4	R5
指定管理料	43,688,680	43,264,289	事業費	2,091,373	1,766,565
利用料収入	3,106,653	4,728,438	管理費	41,214,400	43,975,734
その他の収入	284,085	465,577	その他の支出	2,658,955	2,698,509
合計 (a)	47,079,418	48,458,304	合計 (b)	45,964,728	48,440,808
収支差額 (a)-(b)	1,114,690	17,496			

※参考

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

利用料金減免額	228,000
---------	---------

4 成果目標とその実績

成果目標	延施設利用者数	27,500人
	定員稼働率	17.0%
成果目標に対する実績	延施設利用者数	20,753人
	定員稼働率	13.0%
(参考指標)	施設利用者満足度	90%以上
(参考指標に対する実績)	施設利用者満足度	94.2%
今後の取組方針	設置目的である「心身ともに健全な少年の育成を図る」という目的達成に向けて取り組みながら、新しい体験メニューの開発を目指します。また県内の小中学校への修学旅行誘致や集団宿泊研修、課外授業での利用促進の取組に努めます。また、引き続き感染症対策等にも十分配慮した施設運営を展開していきます。	

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R4	R5	
1 管理業務の実施状況	B	B	事業実施に関するものは、指導系職員を中心に内部で検討し、事業終了後は直ちに職員全員で反省会を行い、反省点の改善に努め、次回の開催に備えた。施設設備の維持管理については、職員で対応できる修繕等については、自分達で行うなどコスト削減に努めた。ただし、専門的技術を要する事業については、外部委託とした。(本年度は漏水工事修繕)また、施設の情報発信として、実施した主催、共催事業の活動報告をスタッフブログにおいて掲載し、今後の参加を呼び掛けた。また、引き続き「感染症対策」に努めた。
2 施設の利用状況	B	B	本年度においては宿泊定員等も通常に戻して運営を行い、2019年度以来、延利用者が20,000人を超えることが出来た。成果目標には達しないものの、今後の取組に期待を感じる事が出来た。
3 成果目標及びその実績	C	C	上記にも記載した様に、成果目標には及ばなかったのは残念だったが、今後は営業活動に力を入れ、宿泊体験研修、修学旅行先、また、各種団体の合宿先としての利用促進に努めていきたい。

※評価の項目「1」の評価 : [A] → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。  
 [B] → 業務計画を順調に実施している。  
 [C] → 業務計画を十分には実施できていない。  
 [D] → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 : 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。  
 「B」 → 当初の目標を達成している。  
 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。  
 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

<p>総括的な評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前の状況に戻りつつある中、新規事業の開発にも力を入れ、令和6年度においては成果目標達成を目指して、営業活動等にも力を入れ取り組んでいきたい。 令和6年度成果目標 施設延利用者数27,500人 定員稼働率 17%</li> <li>・主催事業の開催にあたっては、事業内容で参加人員を考慮しながら実施した。平成25年度から実施している東紀州エリア、隣接する和歌山県新宮市内の全小学校へのチラシ配布を継続した。また募集には例年通りZTV等のメディアを通して募集活動を行った。</li> <li>・開催事業を地方紙等に掲載することで、施設利用のあり方及び認知度アップに努めるとともに、ブログ等においても情報発信に努めた。</li> <li>・「利用者アンケート」を宿泊利用者、日帰り利用者、主催事業参加者の3通りに分けて行い入所の全団体を対象に行い、要望を把握し、直ちに改善できる事については対応し、サービスの向上に努めた。また、コピー用紙の両面利用や封筒の再利用、個人使用の消耗品への名前の記入、また昼休みの消灯等徹底したコストの削減を行った。</li> <li>・施設設置目的である小中学校の宿泊研修の場として、県内外からも利用していただけるよう引き続き営業活動にも力を入れて取り組んでいきたい。 また、スポーツ、文化クラブの合宿基地としての役目も担っていきたい。</li> <li>・施設の維持管理については、修繕計画を立て優先順位をつけて修繕を実施した。本年度においては漏水工事修繕を実施した。</li> <li>・利用者の安全確保のため、「危機管理マニュアル」「災害対策応急マニュアル」を作成し、職員全員が携帯し備えた。迅速、的確な対応をすることが出来るよう心がけるとともに、職員を中心に防火防災講習を実施するとともに、「三重県内男女共同参画連携映画会」に出席し研修を受けた。</li> <li>・業務の執行は、事業計画書に示された内容に基づいて取り組むとともに、職員一人一人が複数の業務を執行できるように体制づくりを行った。また、業務の目標を明確に掲げ、達成に向けての取組のプロセスや結果を検証し、評価・改善しながら効率的で効果的な運営に努めた。</li> </ul>
---------------	---